

ロータリーの歴史に学ぶ

2710 地区 PDG 誠訪昭登（広島西）

●先人の至言

歴史を知らずして現在、未来を語ることはできない。

ー ロータリアン ウィンストン・チャーチル ー

我々が歴史を学ぶのは単に過去を追憶するためではない。過去を学ぶことによって正しく現在を認識することができるのであり、現在を正しく認識することによって初めて未来を正しく展望することができる。歴史を学ばない者には現在及び未来を語る資格はない。

ーウィリアム・メイトランド ケンブリッジ大学教授 ー

先人達の積み重ねた過去を探求し、その中から課題を見いだして鼓舞され、行動に移すことで過去は序幕となる。

ー 大詩人バードの言葉をハーバート・テラーが引用 ー

●歴史的考察から“Ideal of Service”の真意を探る

ロータリーで最も重要な言葉である“Ideal of Service”（奉仕の理念<理想>）の真意は、歴史的考察なくして解明できない。

歴史考察の4W = When、Where、Who、What を念頭に。

1. “Ideal of Service”の真意解明のための歴史的考察 ー邦訳の歴史ー

- ・ 1920年、東京RC創立により日本へ導入されたロータリーにおける“service”は、その原語に対する適訳が日本語に存在しないため、創始者である米山梅吉をはじめとする先達はこれを「サーヴィス」、「Ideal of Service」を「サーヴィスの理想」と訳したりしている。他にも、サービスの観念、ロータリー精神などあり。
- ・ 1937年頃、軍国化進行のためやむを得ず“service”を「奉仕」、「Ideal of Service」を「奉仕の理想」と訳した。しかし、“Service” = 「奉仕」ではなく、「滅私奉公」的なニュアンスが漂う「奉仕」に対し、原語たる英語の“service”は水平的思考を意味する語である。サービスとは人のために役に立とうとする善意の表明語。Service, Not Selfが「超我の奉仕」と訳されたことも誤解のもとになった。Service Above Selfとなったところで「サービス第一、自己第二」（米山梅吉）のように訳したら良かったのではないか。

「ロータリーは決して人に犠牲を強いるものではない。自分というものがあっての上で世の中へのサービスだ。」(第三代ガバナー 村田 省蔵 1933-35) 当時の定説。

2. “Ideal of Service” の真意解明のための歴史的考察 —ロータリー発祥の地アメリカからの考察 —

- 1905年、ポール・ハリスは3人の仲間と共にロータリーを創立(シカゴ RC)。親睦と職業上の相互扶助を目的として始まったが、翌年にはそこに社会への貢献が加わった(ドナルド・カーターの進言による)。シカゴ市内2カ所に公衆トイレを設置(1909年)。
- 1908年、P.ハリスが三代目会長であった時、A.フレデリック・シェルドンとチェスリー・ペリーが入会。シェルドンは、**business** (商売、経営) は **service** (サービス) の科学であるから、職業人の集まりであるロータリーの哲学は **service** の哲学であるべきだと強調。ハリスはこれに大いに賛同してシェルドンを **Publicity and Extension Committee** 委員長に任命し、シェルドンの考えをロータリーの宣伝と拡大のために急進的に推進したが、一部会員の反感を買い、親睦派と奉仕派との対立を惹起してハリスとシェルドンは年度途中で辞任した。
- 1910年(第1回シカゴ大会)、ハリス、シェルドン、ペリーは、シカゴ RCでの推進を断念し、全米 RC 連合会 (**National Association of Rotary Clubs of America**) を組織した(ハリス会長、ペリー事務総長、シェルドン **Business Method Committee** 委員長)。シェルドンは祝宴の中で、**business** の科学は **human service** の科学であると語り、“**He profits most who serves his fellows best.**” と自身の職業観を表現したモットー(標語)を発表して多くの賛同者の拍手を得た。最初の綱領 (**Objects**) 発表、親睦を削除。

(2015.3.28)